

誤飲・誤嚥 に注意しましょう



厚生労働省の調査によると、平成26年から令和元年までの6年間に食品を誤嚥して窒息したことにより14歳以下の子どもが80名死亡していました。そのうち5歳以下が73名で9割を占めていました。子どもは普段食べている食品でも喉に詰まらせてしまうことがあります。食事の際は子どもから目を離さず、見守りながら食べさせましょう。

使用を避ける食材

粘着性が高く、飲み込みにくい



やむを得ず使用する場合の留意点➡

球形や大きさから、気道に入りやすく、つまりやすい



4等分して形や大きさを変える

4等分して形や大きさを变更后、口内に残る皮も取り除く

加熱して形や大きさを変える

弾力性があり、噛み切りにくい



「糸こんにゃく」で代用する

こいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいる園庭で子ども達も毎日元気に走りまわっています。外での活動も増え、おかわりをする姿も沢山みられるようになりました。思いっきり遊んだ子ども達のお腹を満たすことができるよう十分な量の食事を用意していきたいと思います。

食事提供のポイント

保育園では誤嚥防止のために下記の項目について職員間で情報を共有し食事の援助をしています。



全ての食材が、誤嚥につながる可能性があることを覚えておきましょう。

パンなど、ありふれた食材でも誤嚥事故が発生しています。



ゆとりある時間を確保して、よく噛んで食べるように伝えましょう。

無理に完食させようとしたり、食事を急がすことは、誤嚥につながるおそれがあります。



食事の時は、水分を摂らせて、のどを潤すようにしましょう。

水分を摂取すると、食べ物が喉を通りやすくなり、誤嚥の予防になります。

正しい姿勢で食べることを伝えましょう



離乳初期

口を開けた時に、舌と床が平行となるように背もたれ等を調整しましょう。



食事中に「眠くなる」「怒る」「泣く」場合は、食事を中断しましょう。

眠くなった時の対応は？



上記の状態では、通常の咀嚼・嚥下ができないので、口の中に食べ物が残っていないか確認した上で、食事は中断しましょう。



「遊びながら」「しゃべりながら」食べないように伝えましょう。

口の中に食べ物が残ったまま遊んだり、しゃべったりすると、誤嚥につながるおそれがあります。



食事中は、こどもを驚かせないようにしましょう。

急に抱き上げる、口の中に指を入れるなどによって、驚いた拍子に口の中の食べ物を吸い込んで、誤嚥につながるおそれがあります。



離乳中期以降

- カバーやマット等を利用して、正しく座れるように工夫しましょう。
- 足の裏が床につく高さでイスに座らせ、机は肘がつく高さとし、正面を向くように調整しましょう。



ごはん、パン類、いも類、カステラは、特に以下のポイントに配慮しましょう。

POINT

- 水分を摂らせて、のどを潤してから提供しましょう。
- 口の中に詰め込みすぎないように注意しましょう。
- よく噛んで食べるように伝えましょう。



飲み込めずに口の中に残っているものがある時は、無理に飲み込ませず、吐き出させましょう。

無理矢理指を入れて取り出すのではなく、こどもが自分で吐き出すように伝えましょう。



食べ方に注意が必要な食材は、あらかじめ注意を呼びかけましょう。

「パサパサして飲み込みにくい」、「口の中でばらばらになりやすい」など、食材の特徴に合わせた注意を呼びかけましょう。



こどもから離れる時は周りの人に声を掛けましょう。

ほんの一瞬と思っている目も離れた隙に食べ物を詰まらせることもあります。近くにいる人と協力してこどもから目を離さないようにしましょう。